

神奈川県金融経済概況（2018年6月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに拡大している。

すなわち、企業部門をみると、輸出は増加している。生産は緩やかに増加している。設備投資は高い水準で推移している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は労働需給が引き締まりを続けているほか、所得環境も着実に改善している。個人消費は持ち直している。住宅投資は弱めの動きとなっている。この間、公共投資は増加している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 輸出： 増加している。

- ・ アジアや米国向けを中心に増加している。この間、18/3月短観における輸出（製造業）をみると、17年度は前年度を1割弱上回る見込みにあり、18年度も小幅ながら前年を上回る計画となっている。

(2) 生産： 緩やかに増加している。

- ・ 輸送機械は、新興国向けトラックが低調ながら、国内向けは乗用車が横ばい圏内の動きとなっているほか、トラックも底堅く推移しており、全体として緩やかに持ち直している。
- ・ 素材関連は、鉄鋼や化粧品が増加しているものの、一部に定期点検等の影響がみられ、全体としては横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 電気機械は、発電施設向け機器が減少する中、電子部品・デバイスや自動車向け製品、情報通信機械が増加していることから、緩やかに増加している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、半導体等製造装置が高水準で推移している中、外需向けを中心に工作機械やはん用機械類が好調なことから、増加している。

(3) 設備投資： 高い水準で推移している。

- ・ 18/3月短観における、17年度の設備投資計画は、前回調査比下方修正となり、前年を下回って着地する見込みであるが、依然高水準を維持している。18年度については、製造業、非製造業とも、好調な内外需要や収益改善に伴う能力増強投資や更新投資等を背景に、増加計画となっており、全体でも前年を1割弱上回る計画となっている。

(4) 雇用・家計所得環境： 労働需給が引き締まりを続けているほか、所得環境も着実に改善している。

- ・ 18/4月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.38倍と、前月（1.38倍）に続き、統計が公表されている05/2月以降、最も高い水準となった。また、18/3月の現金給与総額は前年比+3.2%となった。この間、春季賃上げ要求妥結状況（最終とりまとめ、神奈川県かながわ労働センター調べ）をみると、前年を上回った。

(5) 個人消費： 持ち直している。

- ・ 百貨店売上高は、化粧品が好調なほか、身の回り品も堅調である一方、衣料品は天候要因などから季節商材を中心に動きが鈍く、持ち直しの動きが緩やかになっている。
- ・ スーパー売上高は、緩やかに持ち直している。
- ・ 家電販売額は、高機能製品を中心に白物家電やテレビ、携帯電話などが堅調なほか、季節家電も増加していることなどから、持ち直している。
- ・ 新車登録台数は、主力車種のモデルチェンジや新型車投入による押し上げ効果の一巡がみられることなどから、増勢が一服している。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、総じてみれば好調となっている。

(6) 住宅投資： 弱めの動きとなっている。

- ・ 18/4月の着工ベースで見ると、貸家、分譲マンション、分譲戸建て、持家のいずれも減少し、全体では前年を1割弱下回った。

(7) 公共投資： 増加している。

- ・ 18/5月の請負額ベースで見ると、国が減少した一方、独立行政法人や市町村などが増加したことから、全体でも前年を上回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けは住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けも不動産業を中心に増加している（貸出金末残前年比：3月+1.8%→4月+1.8%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き緩やかに低下している（月末貸出約定平均金利：3月1.158%→4月1.151%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：3月+3.2%→4月+2.7%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。